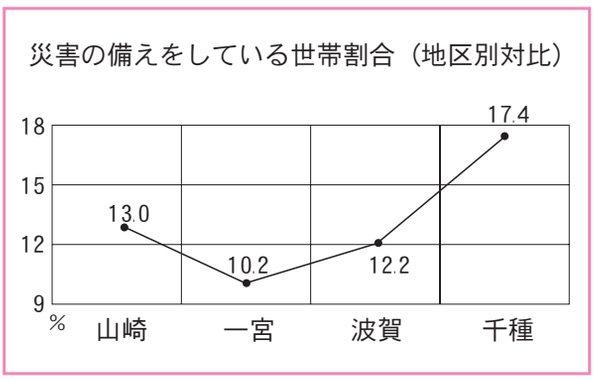
備えは不十分！危機感がまだ薄い

この危険な場所の近くに住んでいる私たちの「備え」は、どうでしょうか。平成18年に本会が実施したアンケート調査では、「世帯で災害への備えをしているかどうか」を聞いたところ、図3のような結果で、市内全域で「備えをしている」は、わずか1割という回答でした。

図3



「社協2006年アンケート結果」より

平成16年23号台風災害の救援活動（出石町にて）

先月の神戸新聞の投書欄で、一昨年神戸市から姫路に移って来た人が「播磨地方は地震に対する危機感がまだ薄いように感じます」と書いてあるのを見ました。この方の投書どおり、宍粟市内でも震災や災害に対する備えは、十分出来ているとは言えないのが現状ではないでしょうか。

社協では、合併後、山崎断層帯地震などの自然災害に備え、災害時社協職員がどのように動くのかということを定め、災害ボランティアセンター設置についての『マニュアル』を作成しました。また、昨年は、このマニュアルを手帳サイズの携帯版にして職員全員が持ち歩くようにしています。そして、携帯版マニュアルの最後のページには、全職員の緊急連絡網を貼り付けています。市役所はじめ警察や病院・施設などの電話番号表もついています。

”社協の課題“マニュアルの更新

現在の課題は、策定したマニュアルの見直しや更新。そして、このマニュアルに基づく災害対応訓練の職員版を定期的に実施することです。

さらに昨年末に市長へ手渡した要望書には、「宍粟市全体の防災訓練に社協も参加させていただきたい」と記載しているように、災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練等行政との共同訓練の実施も課題です。

防災と減災の活動を小地域福祉活動で

「災害は忘れないうちにやってくる」は、昨今の現実です。あらためて今、地域で防災と減災の取り組みを強めてほしいと思います。とりわけ、自治会ごとの小地域福祉活動の中で、要援護者の同意を得て取り組む、福祉マップづくり、避難場所や避難経路の確認、防災器具の整備、そして、救急救命講習や防災訓練など、地域ですでに計画され実施されていることと思いますが、要は、住民のみなさんの防災意識を高めることが肝心です。

台風災害等は、いくらか予測がつきますが、震災は、いつ起きるか予測できません。そのために、日頃からの防災と減災への取り組みは重要であり、これが多くの命を救う活動につながることは、これまでの災害の教訓です。

（本部　山本　正幸）